

◆科目別評価点の算出方法◆

科目別評価点の算出においては、各科目の特性に応じてあらかじめ設定した評価項目（以下の8項目より選定）と評価割合を用いて求めることとする。

◆科目別評価点と評価の対応表◆

科目別評価点	科目別評価
3.6~4	秀
2.6~3.5	優
1.6~2.5	良
1~1.5	可

◆評価項目◆

1 定期試験得点率

	秀（4）	優（3）	良（2）	可（1）	不可（0）
得点率	95~100%	80~94%	65~79%	60~64%	60%未満 →追試※

※追試で得点率が60%以上であれば、何点であっても「可（1）」とする

※追試で得点率が60%未満の場合、原則は「不可（0）」評価とする（但し、課題提出等により別途対応する場合がある）

2 小テスト得点率

	秀（4）	優（3）	良（2）	可（1）	不可（0）
平均得点率	95~100%	80~94%	65~79%	60~64%	60%未満

3 出席率

	秀（4）	優（3）	良（2）	可（1）	不可（0）
授業出席率	100%	95~99%	88~94%	80~87%	80%未満

4 課題提出率

	秀（4）	優（3）	良（2）	可（1）	不可（0）
期限内提出率	100%	95~99%	88~94%	80~87%	80%未満

5 検定試験（当該授業における目標試験について適用し、任意で受験した上位試験の合否については試験の難易度に応じて都度判断する）

	秀（4）	優（3）	良（2）	可（1）	不可（0）
検定試験結果（A）	合格の上位2割	合格の中間6割	合格の下位2割	不合格	正当な理由なく未受験
検定試験結果（B）	満点合格	得点率8割以上で合格	得点率6割以上で合格	不合格	正当な理由なく未受験
検定試験結果（C）	合格の上位1割	合格	不合格の上位4割	不合格の下位6割	正当な理由なく未受験
検定試験結果（D）	合格	不合格の上位2割	不合格の中間6割	不合格の下位2割	正当な理由なく未受験
検定試験結果（E）	得点率で上位の2割	得点率で中間の2割	得点率で下位の6割	学内での受験基準に未達	正当な理由なく未受験
検定試験結果（F）	得点率で上位の1割	得点率で中間の3割	得点率で下位の6割	学内での受験基準に未達	正当な理由なく未受験

6 課題の内容評価（原則として、提出期限内に提出されたものを評価対象とする）

	秀（４）	優（３）	良（２）	可（１）	不可（０）
レポート	「優」の評価に加え、客観的事実やデータに基づいた考察がなされており、説得力がある内容になっている。	「良」の評価に加え、最後に引用・参考文献を挙げたり、引用部分を「」で括弧などの適切な対応がなされている。	テーマに即した内容であり、指定された分量の8割以上を満たしている。	ある程度テーマに沿った内容にはなっているが、一部逸脱した部分が見られる。または、指定された分量の8割を満たしていない。	テーマから逸脱している。または、指定された分量を明らかに満たしていない。
制作物（A）：システム設計	「優」の評価に加え、有効な機能まで網羅され、その表現も事前に提示されたサンプルに補足資料を加えるなど、レビューを行い易くするための工夫が見られる。	システムに最低限必要な機能を網羅しており、その表現が事前に提示されたサンプルに準じたレベルに到達している。	システムに最低限必要な機能を網羅しているが、その表現が事前に提示されたサンプルに準じたレベルに到達しているとは言えない。	システムに最低限必要な機能を網羅していない。または、表現に一部抜け漏れがある。	制作物が提出されていない。
制作物（B）：プログラミングなどの成果物	与えられた要件の9割以上を満たして完成している。 または、自らが立案・計画した機能要件の9割以上を満たして完成している。	与えられた要件の8割以上を満たして完成している。 または、自らが立案・計画した機能要件の8割以上を満たして完成している。	与えられた要件の5割以上を満たして完成している。 または、自らが立案・計画した機能要件の5割以上を満たして完成している。	与えられた要件の3割以上を満たして完成している。 または、自らが立案・計画した機能要件の3割以上を満たして完成している。	与えられた要件の3割未満しか完成していない。 または、自らが立案・計画した機能要件の3割未満しか完成していない。
制作物（E）：課題範囲が明確な単元ごとの演習課題制作	「優」の評価に加え、率先して高レベルな機能追加を行っている。	「良」の評価に加え、制作物に機能追加や配色などの工夫が見られる。	与えられた課題の機能を概ね満たしており、問題なく動作する。	与えられた課題の最低限の機能を満たしておらず、動作に何らかの問題がある。	制作物が提出されていない。
制作物（C）：テーマやターゲットが明確な作品制作	「優」の評価に加え、想定する顧客から強い支持を受ける・またはさらに広い層からの支持を受けることが予想される内容になっている。	「良」の評価に加え、想定する顧客の要望を満たす内容になっている。	テーマに即した内容であり、制作物の完成度が8割を満たしている。	ある程度テーマに沿った内容にはなっているが、一部逸脱した部分が見られる。または、制作物の完成度が8割を満たしていない。	テーマから逸脱している。または、制作物が提出されていない。
制作物（D）：ターゲット設定がない作品制作	「優」の評価に加え、企業にポートフォリオとして提出した際に高評価が見込まれる作品である。	「良」の評価に加え、制作物の配色に工夫が見られる・または画の比率が適切である。	目標とする完成度の8割を満たしており、画材の使い方や制作過程が適切である。	目標とする完成度の8割を満たしていない。または、画材の使い方や制作過程が適切ではない。	制作物が提出されていない。

7 受講態度

	秀（４）	優（３）	良（２）	可（１）	不可（０）
講義型授業	「優」評価に加え、適切なタイミングでの確かな質問をするなど、授業の精度を高めることに貢献している。	「良」評価に加え、講師の問いに積極的に応えるなど、能動的に授業に臨んでいる様子が見られる。	講師の話に耳を傾け、メモを取るなどして授業内容の理解に努めている様子が見られる。	メモを取らなかつたり授業に集中していない様子が見られる。（他者に迷惑をかける行為とはいえない）	時折、居眠りや私語など他者に迷惑をかける不適切な行為が見られる。
演習型授業	「優」の評価に加え、分からなくて困っているクラスメイトに教えてあげる等、他者貢献の姿勢が見られる。	「良」の評価に加え、授業で習った以外の方法・解法も試す等、向上心の高さがうかがえる。	自身の演習課題に真摯に取り組み、スキル向上に努めている様子が見られる。	他者に迷惑を掛ける行為はないが、自身の演習課題に取り組まないことがある。	時折、居眠りや私語など他者に迷惑をかける不適切な行為が見られる。
実習型授業	「優」の評価に加え、目的に即した判断により、的確なリーダーシップを発揮している。	「良」の評価に加え、他のメンバーの動向にも配慮し、積極的にコミュニケーションを図っている。	目的達成に向けてグループで協力して取り組む姿勢があり、積極的に自分の役割を果たそうとしている。	目的達成に向けてグループで協力して取り組む姿勢はあるが、指示されたことしかやろうとしない。	目的達成に向けてグループで協力して取り組もうとする姿勢があまり見られない。

8 発表会

	秀（４）	優（３）	良（２）	可（１）	不可（０）
プレゼンテーション	「優」の評価に加え、考察がしっかりとなされており、発表内容に説得力がある。	「良」の評価に加え、表情が豊かで視線も聴衆に向けられており、聴衆を引き付ける工夫がなされている。	発表は、指定時間の7割以上を使い、かつ時間内に収まっており、声量も十分である。また、スライド等には適切な分量の情報が見やすく記載されている。	以下のいずれかに該当している。 ・発表が、指定時間の7割に達していない。 ・声量が不十分。 ・スライド等の情報量が不十分、またはフォントやデザインが不適切で見づらい。	プレゼン未実施、または以下のすべてに該当している。 ・発表が、指定時間の7割に達していない。 ・声量が不十分。 ・スライド等の情報量が不十分、またはフォントやデザインが不適切で見づらい。